

2016年の歩みを振り返って



<東北と九州の人々とつながること>

東日本大震災以降、東北諸県では諸教会の連絡会やネットワークが誕生している。それまではほとんど考えられなかった教会同士の交わりが誕生し、教職者たちが意見交換をし、共に祈っている。今年も私は東北の地を訪れる機会があった。ここでは福島県キリスト教連絡全体会（以下FCC）のことを記してみたい。3月と11月の全体会の会場は自然豊かで静かな須賀川市のシオンの丘キャンプ場。3月は祈りが中心のプログラムで、11月はFCCのそれぞれの活動の紹介と祈りの時だった。（FCCは、子ども保養、放射能計測、仮設入居者支援、世の光放送の4つの領域で活動。）大きな変化は決して見えてこない福島の地で、震災以来、教会は黙々と歩み続けている。重々しさ、辛さを抱えつつも主に信頼し、互いに励まし合いながら歩んでいる牧師方がいる。「一致して力を出しながら前進していこう。」という気持ちは感じられない。ただ、正直な思いを伝え合う仲間との出会いを喜び、安心して交わっている。その只中に主が確かにおられることを静かに促された二回の集いだった。東北の地でこれからも牧師方の思いに聞き、祈るつながりを大切にしていきたい。この他に、福島県のキリスト教会の礼拝に数回伺った。これからも共に礼拝する恵みの機会が与えられたら喜んでお伺いしたいと思う。

南の九州の地では、九州キリスト災害センターの熊本支部の活動が継続している。「クリスマスにケーキを配ろう」という企画の呼びかけに、私たちが応答でき感謝だ。九州諸県での心のケアセミナーも積み重ねられている。【クラッシュジャパン担当者：岩上敬人】 ボランティアセンターが益城町に移転し、地域の牧師方、長期ボランティアたちが活動している。11月末の再訪の機会に、牧師方やボランティアたちの話に耳を開き、共に祈る機会が与えられたことも感謝だった。



須賀川市シオンの丘



福島県キリスト教連絡会全体会

<備えることとつながること>

東日本大震災は、日本の教会に改めて防災への気づきと促しを与えた。日本各地の教会、教団で、防災関連の動きが進んでいる。特に首都圏では教会防災ネットワークが10余り誕生し、支援や防災の具体的な準備がなされつつある。【クラッシュジャパン担当者：栗原一芳】 災害発生時にボランティアセンターを実際に運営するにはどうしたら良いのか、心のケアとはどんなことをするのか等への意識を持ち、学び始めているネットワークがあり、またネットワークのメンバーたちがチームを編成して、熊本・大分地震被災者支援に行った例がある。現地で活動する牧師方を講師に招いて、講演会を開催するネットワークも各地にある。今、実際に被災者支援活動に労している教会の姿から学ぶことが、次期災害へのより「包括的」な備えにつながっていく。また、このような相互関係が被災者支援を継続している教会にとっても励ましとなっている。支援も防災も、キリストにつながり、キリストとつながる動きである。支援は外に向き、防災は中を向く。この違いはあるが、防災する力が支援する力にもなっていく。どちらの場合でも教会が願っておられることは同じである。支援を通し、防災を通し、地域の人々がキリストにつながることを希求している。またそのことを祈り、支援或いは防災の活動をするひとりひとりがつながりながら歩んでいる。私たちが、このことを喜びとしつつ、つながりが生まれるハブのような団体であり続けたい。

<召しにふさわしく>

宮城県のある方から毎月届くレターを私は楽しみにしている。今年の11月号には、以下のみことばが記されていた。教会にも団体にも、それぞれに神さまの召しがある。東日本大震災被災者支援の時から、クラッシュジャパンはどのような歩みをしてきたのだろうか？ どれだけの方々につながってきたのだろうか？ どのような歩みが召しにふさわしいのだろうか？ これらを主に問いかけながら、祈り続けながら私たちは歩み続けたい。みなさんと主と一緒に。

「召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」エペソ4章1節b

みなさまのお祈りとご支援に心から感謝しつつ。来る年のみなさんの祝福を祈ります。

チームリーダー 永井敏夫

ウェブサイト、フェイスブックで最新情報を随時更新しております。ぜひご覧ください。

www.crashjapan.com

www.facebook.com/crashjapan

8月末、 台風10号によって岩手県岩泉町に多大な被害

クラッシュ ジャパンでは、ダーン・パークナー宣教師と連絡を取りつつ、主に翻訳作業や広報面で協力を継続してきました。またアジアからのボランティアの方々を紹介する中継ぎをすることができました。パークナー宣教師は、東日本大震災以来、岩泉町に住み被災者支援をしておられます。引き続きお祈りください。



岩泉町の被害の様子

九州における 「心のケア・スピリチュアルケア」研修会

4月に熊本で発生した地震以降、九州キリスト災害支援センターの呼びかけで、九州各地で災害対応チャプレン研修会が開催されました。

災害時に被災者の方々、また支援者やボランティアの方々に心のケア、スピリチュアルケアを提供するために、クラッシュ・ジャパンでは研修会に講師を派遣し、その働きを支援しています。

8月22日には長崎バプテスト教会で「心のケア・スピリチュアルケア」研修会が開催されました。また10月2日(日)には「子どもの心のケア」研修会が開催されました。臨床心理士・スクールカウンセラーの岩上真歩子氏が講師として研修を行いました。

10月31日(月)には宮崎市文化ホールで「災害時の心のケア」研修会が開催され、宮崎県内の牧師、信徒リーダーの方々参加されました。講師はクラッシュ ジャパンの岩上敬人、真歩子夫妻が担当しました。ここでも約30名の牧師、信徒リーダーの方々が熱心に心のケアについて学びました。

九州各地で、災害に教会がどのように備える必要があるのか、ネットワーク作りとともに研修が始まっています。クラッシュ ジャパンの働きは、聖書と専門性にしっかりと土台を置いた心のケアを日本の教会とクリスチャンが学び、それを使うことができるようにお手伝いすることです。ぜひ祈りと経済的支援をもって、私たちの活動を支えてくださるよう、お願い申し上げます。

クラッシュ ジャパン チャプレンシー担当 岩上敬人



宮崎での心のケア研修会

「神様が繋げてくださっている教会防災ネットワーク」

8月28日(日)教会防災ネットワークNHK主催の防災講演会(講師:佐藤彰師)が東久留米のCAJを会場に行われた。97名参加、募金171000円を福島第一聖書バプテスト教会に捧げた。今年始まった目黒教会防災ネットワークは3回目、会場を恵泉バプテスト教会に移して行われた。ネットワークの段階が進む、大久保地区では、9月8日、クラッシュの岩上師が初動時の「心のケアと災害時指令システム」について説明、栗原が「支援センターを立ち上げる際に考えるべきこと」を分かち合った。今後、それぞれの地区のネットワークで初動体制づくりが課題となってくる。そのツールとしての「初動体制ワークシート」をフェイスブック「教会防災ネットワーク」に掲載した。11月8日には富士見町教会を会場に、日本基督教団主催の「伊豆諸島伝道懇談会」にて栗原が主講師として防災プレゼン、続いて懇談会が持たれた。伊豆諸島のみならず、瀬戸内海諸島、沖縄、佐渡島の教会から45名ほどが参加した。

☆ 教会防災ネットワークのウェブサイト

<http://tokyonetworklan.wixsite.com/directory>

クラッシュ ジャパン 次期東京災害対策担当
防災士 栗原一芳

クラッシュ ジャパンへの献金はこちらまで

* 郵便振替口座: 00110-3-290907

名義: 一般社団法人 クラッシュジャパン

* 銀行: 三井住友銀行 神田支店 (支店番号: 219)

普通預金 口座番号: 2931366

名義: 一般社団法人 クラッシュジャパン

一般社団法人クラッシュ ジャパン

www.crashjapan.com

〒203-0013 東京都東久留米市新川町 1-2-12 松川プレイス 105号

contact@crashjapan.com

042-410-1244